

## 2020 年金一揆 宣言 (案)

私たちは、「年金の減額をやめよ！高齢者のいのちと健康、生活を守れ！」と2020年年金者一揆に結集した。

安倍政権は、在任7年8か月の間悪政の限りを尽くしたが、国民のたたかいに追い詰められ退陣を余儀なくされた。そして、亜流の菅政権が誕生した。

安倍政権は、2014年に歴代政権の憲法解釈を強引に変更、集団的自衛権の行使を認める閣議決定を行い、続けて安保法制＝戦争法を成立させ「戦争できる国づくり」に大きく踏み出した。沖縄県民が繰り返し「新基地建設反対」の明確な意思を表明しても一顧だにせず、強行し続けている。さらに、憲法9条に自衛隊を書き込む明文改憲案を打ち出し改憲に異常な執念を燃やしたが、国民のたたかいは実現させなかった。「森友」「加計」「桜」疑惑をはじめとする「国政私物化」や行政文書の改ざん・隠ぺいについても国民の厳しい批判を浴びた。「アベノミクス」は貧困と格差を広げ、二度にわたる消費税増税は経済に深刻な打撃を与えた。

私たちの年金は、この8年間で実質6.4%も減額され、マクロ経済スライドと年金額改定ルールもさらに改悪した。今後、さらに30年も年金減額が続く一方、年金積立金は国内外の株式投資へと国民不在の運用が続けられ、大企業の内部留保は不況下でも増大するばかりである。

コロナ感染症の災害による危機的状況が明らかにしたのは、経済効率を優先し、不安定雇用をまん延させ、年金、医療・介護などの社会保障を切り捨ててきた新自由主義路線の誤りであり、いかに人間の命と健康を粗末に扱い人権を蔑ろにするかということである。この政治が許せるはずがない。

菅新首相が誕生した直後言明したのは「安倍政治の継承」であり、政策の基本を「自助・共助・公助・そして絆」に置くことである。悪政を続け、社会保障削減と自己責任を押し付け、国の責任を投げ捨てる「自助」を全面に打ち出す政治を私たちは絶対に許さない。

私たちは、高齢者の誇りと尊厳を取り戻すために立ち上がっている。

先の臨時国会における首相指名選挙において、事前の合意にもとづき、すべての野党が一致して立憲民主党の枝野代表に投票した。これは野党共闘にとって画期的前進である。次の選挙で野党共闘が勝利すれば、与野党逆転が可能となる。

市民と野党の共闘が15項目の共通政策にもとづき団結してたたかえば政権交代、野党連合政権の実現が射程に入ってきたのである。

私たちはいま、日本の政治を大転換しうる歴史的岐路に立っている。高齢者の誇りと尊厳をかけ、渾身の力を発揮すべき時である。

11万人の年金者組合員、コロナ禍に注意をはらいつつ立ち上がろう！仲間づくり月間を成功させよう！緊急署名をやりきろう！年金裁判勝利のために国民運動に広げよう！

3,600万人の日本高齢者、立ち上がろう！

たたかいは、今からだ！これからだ！

以上、宣言する。

2020年10月30日 年金一揆